

鮮烈な記憶、心に残る思い出 谷川岳 滑落

昭和33年の早大入学とともに、先鋭的な雪嶺山岳会で本格的に登山を始めていましたが、翌年の5月の連休に谷川岳で遭難事故を起こしてしまいました。

7人の仲間とマチガ沢でロッククライミングの新人訓練中に、頂上直下の岩場で新人の一人がバランスを崩して滑落。直ぐ後を登っていた私の手を掴んだので、二人は急峻な草付きの岩場を70m滑落した。私は40mのザイルを身体に巻いており、岩場を横向きに回転しながら転げ落ちた。最初は岩に生えた草を両手で懸命に掴もうとしたが掴めず、我が人生は終わったと思い、心の中で「お母さん、御免なさい!」と叫んだ。遂に雪渓のシュレンド(雪渓と岩壁との隙間)に落下し、失神した状態でやっと止まった。新人は更に下のクレバスに落下した。後から登って来た高崎山岳会のザイルを借りて仲間達が助けに下りて来て、九死に一生を得たが、肋骨を3本折ってしまった。新人は重症で、仲間の一人が新人を背負い、私は自力で、頂上近くの無人の肩の小屋まで、夕暮れの中、やっこの思いで辿り着いた。五月の連休であり、遭難事故発生を予想して山小屋に読売新聞記者が一人待機しており、遭難は直ちにモールス信号で本社に発信された。

翌朝、天神尾根を下山すると、登山口には大勢の報道陣が詰めかけており、新聞や週刊誌に大々的に報じられてしまった。創刊したばかりの週刊誌「女性自身」には、ズボンが大きく破れた私の後ろ姿の写真が大きく載ってしまった。また、後に発行された「谷川岳遭難史」には、東大生高森茂と、間違った大学名で記載されていた。

実はその前年の12月に、慶應義塾大4年で山岳部(登高会)の実兄(深川安明:後に日本山岳会理事、監事)が、北アルプスの中岳(槍ヶ岳と北穂高岳を結ぶ稜線の中間)で、宿泊用に掘った雪洞ごと雪崩に巻き込まれ200m流された。8人の隊員の内4人が死亡し、兄は雪面から顔が出ていたので救助され、生き残った。救助されるまで5日間生死がわからず、母親の心配は大変なものでした。榎有恒さん(アイガー北壁冬季初登頂者、第3次マナスル登山隊長で日本山岳会設立者)の指揮下、上高地側と飛騨側から50人ずつ計100人の捜索隊が出動し、新聞の3面トップ記事で1週間報道されました。登高会関係者以外は捜索隊に加われず、母と一緒に松本のホテルで一週間待機しましたが、上高地で茶毘にした遺骨と共に長い行列が松本駅に到着し、その中に兄の姿を見出し、思わず駆け寄って「兄貴、助かって良かったな」と言いながらハグしようとしたが、いきなり平手打ちを喰らい、おどろいて兄を見上げると、歯を食いしばって泣き出しそうな顔をしていました。我が家に遊びに来ていた親しい4人の岳友達を失ってしまった兄の気持ちを思うと、居た堪れない思いで一杯でした。兄弟そろって大変な親不孝でしたが、幸いな事に二人共に強運でした。



初代登山同好会会長 高森茂

高森茂 62年 理工卒

私の流山・今昔 「江戸川町」の思い出

この何年かで我が流山市はある種ブランド化しつつあると感じています。それは「流山」を冠する駅が3駅もある都心直線のTX線の開通や「母になるなら、流山市。」なるキャッチコピーに共感した子育て世代の転入、多様な大型商業施設の進出による賑わい等によると思います。しかし、この「流山」という地名が地図上から消えてしまう出来事があったことをご存知の方は少ないと思います。

終戦後、地方財政の立て直しの為に全国的に町村合併が進められ、この地も昭和26年4月1日に1町2村(流山町、八木村、新川村)の対等合併となり、新町が誕生しました。その町名は流山町ではなく「江戸川町」でした。さらに驚いたことにこの新生江戸川町は翌年1月1日に流山町と変更され、江戸川町は僅か7ヶ月間で幕引きとなりました。この出来事は私が小学4年生(10歳)の時であり、この経緯から4年生終了時の通知表に載る学校名は合併前と変わらず「千葉県東葛飾郡流山町 流山町立流山小学校」のままとなりました。

変更事由は諸説あり、一般的には、東京都江戸川区より郵便物や行政運営上紛らわしいとのことで迫られ、変更せざるを得なかったとの説です。しかし、私の仮説ですが、この変更劇には別のシナリオがあったのではと感じています。

合併に際して各町村で賛否両論を含め多くの意見があったようです。特に流山においては江戸時代より白味噌の名産地として、また新撰組「近藤勇、土方歳三 離別の地」として全国にも名高い下総・流山の名称変更に対して根強い反対があったようでした。同様な動きは新川村、八木村にもあったに違いないと思います。

それ故、新町名や町役場の場所を始め重要事項の決定は、融和に至るまで時間がかかり、特に町名決定は最難題であったと思います。そこで、まず江戸川町で速やかに発足し、その後流山町とする合意があったのではないかと、祖父古坂喜左衛門(呉服商まじや3代目)の話等から推察しています。この背景には流山、八木、新川の3域間にあった濃密な人間関係や経済交流の太い繋がりに裏打ちされた「互譲」の心にあったと思います。

余談ですが昭和25年2月の協議会発足時には小金町(現松戸市小金)も加わっていましたが途中で離脱したとのことです。小金町も加わっていたなら流山は現在とは違う発展を遂げたかも知れませんね。

江戸川町について関連の品を探しましたが見つからず、流山市市立博物館にて唯一「江戸川町町長之印」を提示して頂きました。私が一番探し当てたいものは自転車鑑札です。自転車鑑札は納税済み証明の鑑札で、「市町村名 登録ナンバー」が刻印されたプレート鑑札を車体に付けねばならない制度で、他にも「リヤカーや荷車」にも荷車税として税金が課せられていました。当時流山小学校4年生の私が、「江戸川町」を臆気ながらでも憶えているのは、町村合併、町名変更で祖父や父、店の衆が、「伝票や手拭いの名入れ」はどうするやら、「鑑札」はどうなるのだ等と戸惑い話し合っていたことを憶えているからです。

我が家には母や奥の女衆用の婦人車、店舗用の実用車数台と運搬車、そしてリヤカーがあり、町名が記された納税済み証明の自転車鑑札が記憶にあります。残念ながら、江戸川町鑑札の画像は見つかりませんでした。

以上が幻の「江戸川町」にかかわる私の小学4年生時の思い出です。



古坂 稔 65年 政経卒



スペースの関係上、掲載文はコンパクト化しています。オリジナル全文は、左QRコードからご覧ください。

流山稲門会会報

発行責任者 会長 高橋孝志
電話 080-5180-0982

流山稲門会HP



入会希望の方は流山稲門会HPの
トップページの「会員募集について」を
ご参照下さい。

第22回年次総会開催



高橋会長挨拶



唐松公三氏祝辞



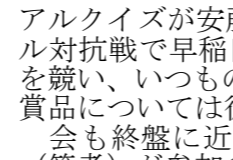
伊藤康成氏 乾杯の音頭



楽しくビジュアルクイズ



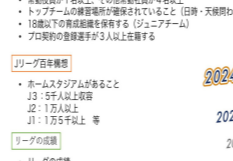
全員で校歌斉唱



全員で校歌斉唱



全員で校歌斉唱



全員で校歌斉唱



全員で校歌斉唱

全員で校歌斉唱

全員で校歌斉唱

全員で校歌斉唱

全員で校歌斉唱

全員で校歌斉唱

2024年3月24日(日) 11時よりルミエールホール(ホテルルミエールグランド流山おおたかの森)にてMC須賀副幹事長のオープニングコールで総会がスタート。出席者は大学から2名、県支部長を含め近隣稲門会から10名、特別参加1名、講師1名及び2024早稲田祭運営スタッフ(学生)2名を加えた来賓16名と会員60名の合計76名となりました。前回総会まで長期にわたったコロナ禍による規制が解消され、今回ようやく通常運営の総会に復帰しました。

第一部総会の冒頭、高橋会長が挨拶をされ、特にこの中で年初に発生した能登半島地震により被災された方々へのお見舞いの言葉、また今年1月に急逝された船橋稲門会の澤田俊子会長について当会との長年の親交を偲び哀悼の意を表明されました。引き続き牛島(副会長)議長のもと、議案審議へ進み第1号議案2023年度活動報告(石井幹事長)、第2号議案2023年度会計報告(伊東会計幹事)と監査報告(中津監査役)、第3号議案2024年度活動計画及び予算説明(石井幹事長)、第4号議案2024年度役員改選と順調に提案・審議が進み、挙手採決により全議案が可決承認されました。その後、高橋会長より新旧役員及び新任の須賀幹事長の紹介に続き、来賓の方々を代表して早稲田大学理事の天野紀明氏、早稲田大学校友会千葉県支部支部長の唐松公三氏のお二人から温かなご祝辞を頂戴し第一部を終了。

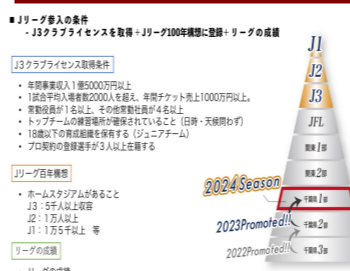
休憩を挟み第二部は渡辺企画委員長の進行により今回の講演会講師で地元流山FC代表取締役、安芸銀治氏をご紹介、今回の演題「ゼロから10年以内のJリーグ入りを目指す!」についてサッカー選手としてご自身の国内外での体験談と共に熱くその思いを語っていただき、出席者一同、氏の心意気に引き込まれ拍手を送りました。

再び休憩を挟み第三部懇親会の始まりです。まずはご来賓の方々より早稲田大学人事課長・千葉県地域担当課長の水澤宏之氏からご挨拶をいただいた後、高橋会長よりご来賓の方々及び学生を含め16名のご紹介、引き続き千葉稲門会会長、伊藤康成氏による乾杯のご発声にて皆様元気に唱和、お待ちかねの宴が開幕。会場が盛り上がる中、笠井副会長の進行で初参加の会員、羽田幸広さんのご紹介と恒例のインタビューに続き、同好会の現状について今回は散策会、登山同好会、ゴルフ同好会及び若手の会、またスポーツ観戦同好会はクイズタイムに、各代表世話人の方々より活動状況が紹介されました。また、昨年に続き今回も2024早稲田祭運営スタッフの学生2名に参加いただき、同祭の広報と会場での募金活動が行われ皆様のご協力でも成果を上げられました。さらに宴が進む中、いよいよ恒例の催し、早稲田ビジュアルクイズが安藤副幹事長、石井(浩)幹事お二人の軽妙な掛け合いで進行、今回もテーブル対抗戦で早稲田スポーツにまつわる3択7問のクイズ形式により得点順位で金、銀、銅賞を競い、いつものように和気あいあい盛り上がる中、勝者が決定し各賞品が授与されました。賞品については従来どおり東北復興支援として地元の団体から購入したものです。

会も終盤に近づき、恒例の校歌斉唱。今回は3番まで熱く歌い上げました。最後に石井(筆者)が参加の皆様への謝辞を述べ、ほぼ定刻どおり15時に閉会となりました。

副会長 石井孝 74年 社学卒

流山FCご紹介 ゼロから10年以内にJリーグ入りを目指す!



■NAGAREYAMA F.C.とは
創設時からJリーグ参入を目標に掲げ千葉県流山市をホームタウンとし、2022年に始動した社会人サッカークラブ。2022シーズン、千葉県3部リーグに初参入で全勝優勝。2023シーズン、リーグ無敗同士の最終節を制し、2年連続全勝優勝。2024シーズンは千葉県1部リーグに参入。

■ご挨拶
3年前は選手もパートナー企業も練習場も無く、ゼロからスタートした当クラブですが、現在ようやくクラブとしての基盤が出来てきたと感じてきております。今回流山稲門会様の活動に参加させていただきましたが、これを機にこれから一緒に流山を盛り上げていけたら嬉しいです! さらに内部に入って一緒にやりたい! という方がいらっしゃれば、ぜひ後援会の方にもご入会いただけたら嬉しいです!

■NAGAREYAMA F.C. 後援会
対象: 個人(支払いは企業でも可能です) 年会費: 1万円
会員の皆様には「後援会会員カード」「会員バッジ」が贈呈されます。加入登録は右側のQRコードからお願い致します。
※活動の詳細はホームページをご参照ください。

https://nagareyamafc.co.jp/



加入登録

流山FC 代表取締役 安芸銀治

流山FC